

サンゴメンテナンスの活動報告

TOPIC.1 サンゴの白化

2022年の夏はサンゴにとって厳しい夏でした。地球温暖化等の影響で海水温が上昇していると言われていますが、この夏の恩納村の海水温はサンゴの白化現象が起こるほど上昇し、長い月日をかけて立派に成長したサンゴも白化していました。

サンゴは褐虫藻とよばれる植物プランクトンと共生関係にあります。褐虫藻の色はその名の通り褐色で、サンゴは褐虫藻の影響で茶色っぽい色をしています。しかし、海水温が上昇すぎると褐虫藻がサンゴの体内からいなくなってしまい、その結果サンゴが白くなることから白化現象と言われています。



キレイなサンゴに見えるけど、実は…？

白化しても、骨格だけになったのではなく、透明になった触手や共肉、いわゆるお肉の部分が残っているため、まだサンゴは生きています。また、色素を作っていたサンゴは褐虫藻の茶色がなくなり色素の色だけが見えるようになりパステルカラーになることも。一見キレイにも見えますが、実はサンゴにとってはピンチな状態。

2022年は9月にやっと台風が沖縄に接近。海の中をかき混ぜてくれたおかげで水温が下がり、白化から回復したサンゴも見ることができました。一方で白化から回復しなかったサンゴもあり、環境問題への対策が急務であると考えさせられました。



白化してしまったサンゴたち

TOPIC.2 恩納村海域の環境調査！

私たちがサンゴの移植をしているエリアでは、最近サンゴの数も増え、回復傾向を実感できるようになってきました。それは、恩納村海域の他のエリアでも…。活動しているエリアから船で数分移動したポイントに潜ってみると…、あたり一面サンゴ、サンゴ、サンゴ!! 浅い水深のエリアでは岩肌が見えないほどサンゴに覆いつくされていました。いつまでも、この美しいサンゴ礁を残していきたいなと改めて感じる事ができた環境調査でした。



小さな赤ちゃんサンゴも見つけたよ



岩場を覆うサンゴたちを思わずバシャ



サンゴを食べる魚の集団にも遭遇



高水温の影響で白化しているサンゴも…



TOPIC 番外編 サンゴプロジェクトのユニフォーム完成♡

この度、サンゴプロジェクトのユニフォームを製作しました。気持ちも新たに、これからも活動を邁進していきます！



サンゴ返還プロジェクト 活動報告

サンゴの移植場所の変化

私たちが管理を行っている海中でも多くのサンゴが群生しており、それに伴いサンゴ礁に生息する魚の種類も増えてきました。これも「世界一サンゴと人にやさしい村 恩納村」の様々な活動が実を結んでいる結果と感じています。

一方、「サンシャイン水族館が行った移植サンゴは?」と気になる方もいると思います。写真を見てみると一目瞭然! 移植してから約2年が経過し、それぞれのサンゴが大きく成長したのがわかります! もちろんこのサンゴの周りも大きなサンゴが多く群生しており、サンゴにとって良い環境であったことも成長に繋がった要因ではないかと考えられます。今後もサンゴの移植活動は行う予定です! なかなか写真では伝わりきれない部分もあります…。みなさまも、ぜひサンゴが生息している海へ潜ってみてください! 新しい世界が広がるかもしれませんよ!



2020年11月



2022年9月



棲みつく魚たち

スタッフ一言メモ



**オンラインショップ
スタッフ R.T.**

サンゴプロジェクトの内容は報告書の画像や映像等を通じて知ってはいましたが、実際に恩納村の海に潜りこの目で成長したサンゴを見てみたい! と思っていました。実際に潜ってみて…サンゴの成長幅の大きさやサンゴに集まる生き物たちの多さに驚いたと同時に、海や生き物たちにとってサンゴはなくてはならないものだということが改めて実感しました。



**海獣担当
飼育スタッフ R.Y.**

海での潜水は久しぶりだったため、はじめは不安もありました。しかし、いざ海に潜ると成長中のサンゴやそこに集まる様々な生き物を目の当たりにし、興奮して不安はすぐどこかに消えていきました!(危うく魚を目で追いつぎ、サンゴの調査の手が止まってしまうようなほど…)これからもサンゴがイキイキと育ち、そこに集まる色とりどりの生き物たちの風景を将来に残していけるようにしたいと改めて思う、良いきっかけとなったサンゴプロジェクト体験でした。



**採用研修担当
スタッフ N.F.**

恩納村の海ですくすく育つサンゴはもちろん美しかったのですが、それ以上にサンゴの成長を祈りながら水中で愛情深くメンテナンスするメンバーの姿が印象的でした。環境問題は時間を許さず、このままでは改善されない大きな課題だと思います。サンゴ再生に込められた思いを直で感じる事ができた経験を活かし、これからの行動に移していきたいと強く感じました。

サンゴ礁再生プロジェクト 活動報告

産卵に立ち会えず…

2017年から計4回、恩納村海域で管理しているサンゴの産卵を確認してきました。今年の産卵も立ち会うべく、恩納村の海を知り尽くしている恩納村漁協やダイビングショップのみなさまと密に連絡を取り合い、日程を決め沖縄県へ向かいました。

しかし、時すでに遅し。恩納村に到着した頃にはサンゴの中に卵を確認することはできませんでした。サンゴをよく観察してみると、卵があったであろう空洞が見られたことから、産卵は私たちが到着する前に行われた可能性が高く、結果として産卵を直に見ることが叶いませんでした…。



卵があったのは確認済み！

しかし、事前に卵を保有していることは確認できていたため、自然界で私たちが育成中のサンゴから新たな命が生まれ、1つでも多くのサンゴが自然界に適応し、成長してくれることを願いたいと思います。また数か月後に産卵の時期がやってきます。今年こそは産卵に立ち会えるように調整していきます。



卵、ちゃんと産まれて成長しているかな…

2020年産サンゴ初移植！

2020年6月に生まれたサンゴをサンシャイン水族館のバックヤードで大切に育ててきました。そして、約2年半の歳月を経て、ついに恩納村の海に移植する日がやってきました。過去にも卵から育てたサンゴを移植したことはありますが、水族館で手をかけて育ててきたこともあり喜びもひとしお。



移植作業の様子

水族館のバックヤードツアーで来館者のみなさまに、卵から育てたサンゴをご紹介します。でも「こんなに小さいサンゴが大きくなるんですか!？」といつも驚かれます。最初は2mm程度のサンゴの赤ちゃんも分裂を繰り返してサンゴらしい形へと…。恩納村の海でも元気に成長してくれることを願って、今後もモニタリングを続けたいと思います！



30日齢のサンゴ



約2年半齢のサンゴ



移植後のサンゴ